

2025 年 6 月 19 日

NTT コミュニケーションズ株式会社

20 種の AI エージェントを活用した業界別ソリューションの提供を開始

ドコモグループの法人事業ブランド「ドコモビジネス」を展開する NTT コミュニケーションズ株式会社(以下 NTT Com)は、株式会社エクサウィザーズ(以下 エクサウィザーズ)との資本業務提携^{※1}を通じて取り組みの一つとして、業務に特化した 20 種の AI エージェントを活用した業界別ソリューション(以下 本ソリューション)を、2025 年 6 月 19 日より提供開始します。業務理解に優れた AI エージェントを、迅速かつ簡易に導入できるようになることで、企業の生産性向上や競争力強化に貢献します。

1. 背景

昨今、生成 AI 技術は急速に進化し、さまざまな分野での応用が進んでいます。特に、企業においては「生成 AI を使ってみる」フェーズから「生成 AI を業務に組み込む」フェーズへ移行してきている中で、共通的な生成 AI ツールを導入しただけでは各業務への適用が難しく、導入はしたものの業務プロセスの中に組み込めず積極的に活用できていないという課題が浮き彫りになっています。また業務に合わせた生成 AI を導入しようとする、業務ごとにゼロから設計・開発を行う必要があるため、企業への導入にあたっては高いコストと長い開発期間が課題となっています。

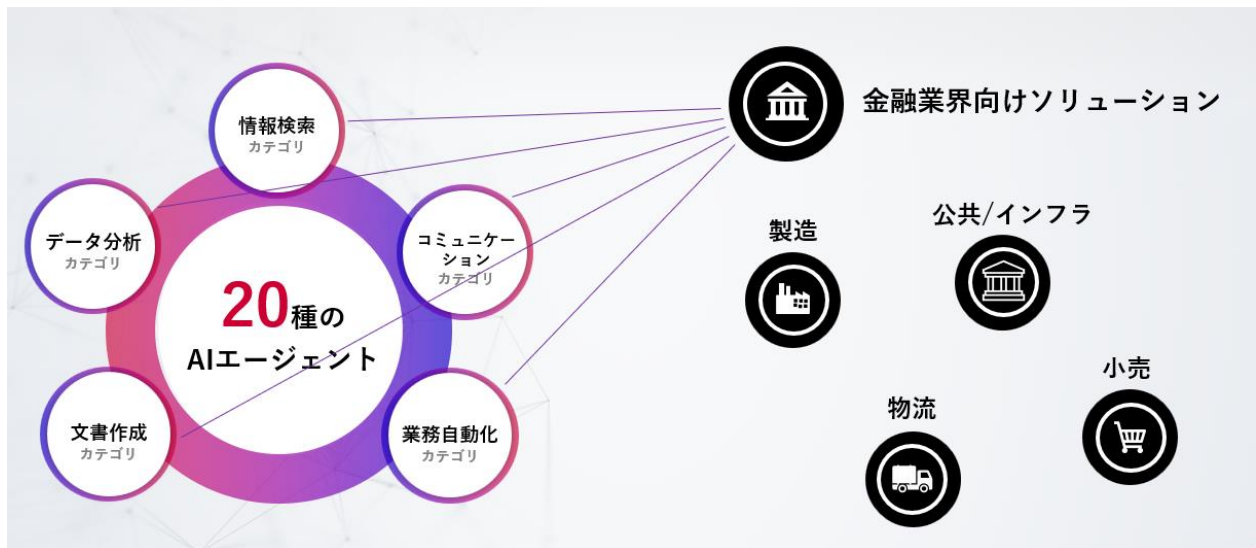
こうした課題に対し、NTT Com はエクサウィザーズとともに、業務に特化した 20 種の AI エージェントを活用した業界別ソリューションの提供を開始します。

2. 本ソリューションの概要とユースケース例

本ソリューションでは、業務を理解した AI エージェントに、業界知識やルールなどのデータを掛け合わせることで、業務プロセスに組み込んで活用できる生成 AI を実現します。さらに、ベースとなる AI エージェントに個社の業務仕様に合わせたカスタマイズを加えることで、コストや開発期間を最小限に抑えながら業務の即戦力として活用いただけます。これにより、さらなる業務効率化や新たな価値の創造を実現します。

20 種の AI エージェントは、文書作成、データ分析、モニタリングなどの各業務を行うことができます。これらのエージェントを組み合わせ、各業界向けに特化させたソリューションとして提供します。

<20種のAIエージェント 各業界向けソリューションとしての展開イメージ>



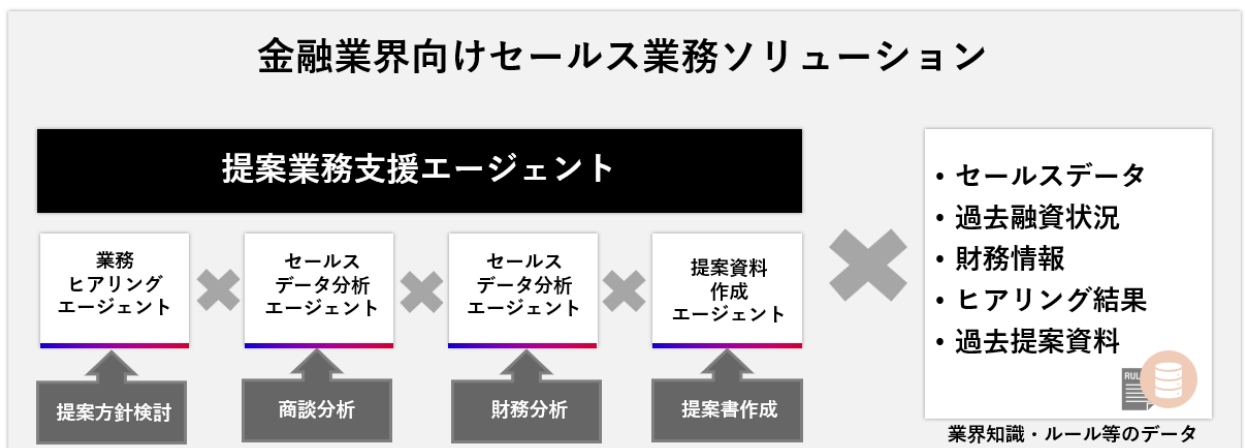
業界別ソリューション例①

■業務シーン

金融業界におけるお客さまへの提案業務の支援

■提案業務支援エージェントの流れ

- ・業務ヒアリングエージェントと対話して提案方針を策定。
- ・セールスデータ分析エージェントにて商談履歴や財務データ等の分析を実施し、提案の材料となる分析データを収集。
- ・提案方針と分析データをもとに、提案資料作成エージェントにて過去の提案資料等を参考にしながら新規提案書を作成。



業界別ソリューション②

■業務シーン

製造業における知財文書作成の支援

■知財文書作成エージェントの流れ

- ・業務ヒアリングエージェントへアイデアを入力し、対話しながら特許となりうるポイントを整理。

- ・社内ナレッジエージェントや外部情報リサーチエージェントで、社内知財アイデアや出願済特許の情報を収集。
- ・文書作成エージェントにて特許出願に必要な出願書類を作成。



＜画面イメージ 知財文書作成エージェントが特許となりうるポイントを整理＞

知財文書作成エージェント

再実行 停止

実行中 2025年4月14日 5:01

特許明細書自動作成システム

経過時間：たった今

アイデアをまとめた音声データから、特許明細書の作成を行うシステムを開発しようとしています。明細書を1ステップで作成するのではなく、複数のステップに分解し、それぞれのステップを人、システム、AIエージェントに担当させる仕組みを持つシステムです。

特許化できるポイントの決定 1/3

経過時間：たった今

特許化できるポイントの提案

LLMによる生成

結果を見る

LLMによる詳細分析

明細書の自動作成 0/1

明細書の出力 0/2

特許出願に必要な観点を理解した業務ヒアリングエージェントが人と対話しながら特許化できるポイントを整理

特許化できる主要ポイント（知財観点から）

1. 段階的処理アーキテクチャ：明細書作成を複数のステップに分解し、それぞれを最適な担当（人、システム、AIエージェント）に割り当てるアーキテクチャ設計。これにより効率化と品質向上を実現する方法。
2. 音声データからの構造化抽出技術：発明者の音声データから特許関連要素（課題、解決手段、効果など）を抽出・構造化する特殊な処理技術。
3. ハイブリッド協調システム：人間とAIの強みを組み合わせた協調ワークフローの具体的な実装方法。特に各ステップでの役割分担と連携方法の独自性。
4. 特許要件適合性評価機能：生成された明細書案が特許要件（新規性、進歩性、産業上の利用可能性等）を満たしているかを評価・改善するアルゴリズム。
5. 適応型プロセス最適化：過去の明細書作成プロセスからの学習に基づき、各発明の特性に応じて最適なワークフロー・担当者配置を自動的に調整する仕組み。

これらのポイントは、技術的な新規性と進歩性を持ち、具体的な実装方法を示すことで特許化の可能性が高いと考えられます。さらに詳細な検討や各ポイントの展開方法についてご質問があれば、お知らせください

3. 提供開始日

2025年6月19日

4. 提供方法

NTT Comの業界別ソリューションのラインアップの一つとして展開いたします。

5. お申し込み方法

NTT Com 営業担当までお問い合わせください。

6. 今後の展開

初期ターゲットは専門性が高い業務の多い金融・公共・製造業界と設定しておりますが、今後は全業界をターゲットに、2026年に200種のAIエージェントの展開をめざします。

NTTドコモ、NTT Com、NTTコムウェアは、ドコモグループの法人事業を統合し、法人事業ブランド「ドコモビジネス」を展開しています。私たちは、企業と地域が持続的に成長できる自律分散型社会を支える「産業・地域 DX のプラットフォーマー」として、新たな価値を生み出し、豊かな社会の実現をめざします。

つなごう。驚きを。幸せを。



https://www.ntt.com/business/lp/docomobusiness/db2024_sol.html

※1：報道発表「NTT Com とエクサウィザーズの資本業務提携について」（2025年5月28日）